

# 会 議 録

<会議名称> 令和4年度 第3回岸和田市小中一貫教育推進会議

<開催日>令和4年9月8日(木)

<時 間>15時30分~17時

<場 所>岸和田市立福祉総合センター 3階 交流室

<出席者> ○出席、■欠席

(学校関係者)

和泉校長	北川校長	南教頭	上ノ山教頭	何森教諭	川本教諭
○	○	○	○	○	○

(教育委員会事務局)

片山学校教育部長 (委員長)	松本学校教育課長 (副委員長)	八幡人権教育課長	角銅指導主事
○	○	■	○

(学識経験者)

山口教授
○

<議題等>

1. 教育委員会挨拶
2. 協議
3. 今後の予定

<当日配布資料>

- ・岸和田市教育大綱
- ・小中一貫教育推進モデル校区の設置に向けて

## 1. 教育委員会挨拶

### 【片山委員長】

こんにちは。学校教育部の片山です。

本日は何かとご多用の中、第3回岸和田市小中一貫教育推進会議にご出席いただきましてありがとうございます。

6月に行いました第2回の推進会議では、「めざす子ども像」の設定や、年間の取組みの計画等について、山口先生よりご提供いただきました姫路市の資料を通して、具体的なイメージを共有することができました。今後進めていくにあたっては、「実をとる」ということを大切にする。少しでも考えを整理しやすくするために、フレームを示す。計画を立てるにあたっては、今すでに行っている取組みを、小中一貫教育の視点で整理する。といったことが確認できたかと思います。

3回目となる今回は、岸和田市の小中一貫教育の方向性や、モデル校区の設置について取り上げながら、少しずつ具体的な中身について協議を進めたいと考えます。

そこで本日も、学識経験者として、関西福祉大学 教育学部 児童教育学科 教職センター教授 山口偉一先生にご参加いただいております。ご多忙の中、また遠方よりお越しいただき、誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願ひします。

1時間半という大変限られた時間ですので、委員の皆さまには、ぜひ積極的にご発言いただき、実のある会議にしたいと思ひます。

それではこの後、どうぞよろしくお願ひします。

## 2. 協議

### 【片山委員長】

協議に入る前に、第2回の会議の振り返りをしたい。

前回は、今後小中一貫教育の具体を考えていくうえで、小中学校それぞれの課題や取り組むべきことがある中で、校区のめざす子ども像や具体の取組みについては、校区のそれぞれの学校の最大公約数を考えようということだった。とにかく欲張らないこと。負担が心配だという意見もあるので、そういう点について十分注意しながら進めましょう、ということになっていた。そのためには、まずフレームを考える必要があるのではないか、ということで、本日はそのフレームについてまず協議をしたいと思う。

フレームについては、岸和田市の大きな教育の方向性を外すわけにはいかないので、本日資料として市の教育大綱を出させていただひているので、説明をお願ひしたい。

### 【角銅委員】

「第2期岸和田市教育大綱」は、2019年度から5年間を対象期間として、岸和田市の教育の大きな方向性を示しているもの。基本方針は8つの柱で整理している。岸和田の小中一貫教育の方向性を考えていくうえで、この教育大綱が一つの目安のなると考えている。いわゆるフレームを考えていくことが望ましいだろうということで、今回資料で出させていたひいた。

#### 【何森委員】

いつも、多忙化について話している。多忙化というよりも、すでに多忙な状態なので、さらに多忙になる状況と言うほうが正しい。今後、小中一貫教育が進められることで、どのようなことが配慮されるのかを明らかにしてほしい。教育大綱にも負担軽減ということが示されている。新聞でも、働き方改革の効果がなかったことが記事になっていた。有用感が高まる点については良いことだが、進めていくにあたって、例えば基本方針の見直しの可能性がある言いながら、それも今は特にない中で、今後どんなことが進んでいくのかが不安。

#### 【北川委員】

今日は、職員室の前の黒板に、私の出張内容として小中一貫の会議と書かれているのを見た職員から、どのような会議かを問われた。小中一貫教育の方針を考える会議である旨を伝えたら、小中一貫教育によってスムーズに学力がついて、スムーズに生徒指導ができれば、むしろ多忙ではなくなるという話を話していた。なるほどと思った。そうなるように、しっかりとした授業、しっかりとした生徒指導ができるような小中一貫教育を進めていきたい。

#### 【片山委員長】

やはりさらに忙しくなるのではないかと懸念がある。この場で協議する中で、しっかりと調整しながら進めていこうと思う。とにかく、これをしなければというのではない。それぞれの校区で必要と思っていないことをするのは、それこそ多忙化につながる。ご心配の部分については、十分理解したうえで進めていきたい。多忙にならないように進めていくにあたっては、モデルとしてどこかの校区に進めてもらう必要があるだろう。その中で、課題を見つけて市全体の取組みにつなげていきたい。そのための方向性として、一定のフレームが必要となる。そこで、今日は資料として教育大綱を出している。

#### 【松本副委員長】

この会議は「推進会議」なので、何とか小中一貫教育を推進していきたいと思う。先ほど出していただいたご意見は、しっかりと受けとめて進めていきたいと思う。教育大綱の基本方針の5の6に負担軽減が示されていることに留意して、取捨選択しながら進めていきたい。例えば、私が中学校に勤めていた時に、とにかく小中の教員間で批判しあうことはやめて、子どもにとって良い方向に進むように連携しようと発信したこともあった。一方で、子どもたちにとって不必要だと思うことはやめていこうとも。見極めも大切だと思う。

#### 【和泉委員】

前回の会議でも、議論は幅広にしながら、やることは絞りながら、ということだった。ある意味ぶれずに取り組んでいくためには、教育大綱の方向性があると良いと思う。

**【片山委員長】**

ただ、モデルとして取り組む校区に、教育大綱の中のこれ、というように指定すると取り組みにくいだろう。やはり、校区のニーズにしたがって考えてもらうほうがいいと思う。

**【山口教授】**

それぞれの先生方で、しっかりと考えておられるご心配な点はよくわかる。今日お持ちした新聞記事は、主体的・対話的で深い学びという、学習指導要領が示している授業の方向性がしっかりと理解されず、取り組みがすすんでいない現状を示したものである。つまり、全国どこの小学校も中学校も取り組んでいかなければならない新学習指導要領のねらいが絵に描いた餅になってしまっているということ。授業を中核に生きる力をつけていきたいという思いは全教員が共通に持っていることだと思う。こういうことを踏まえて、新学習指導要領がめざす授業改善を小中で協働して進めていくことを中核に据えることが大切なのではないか。その際に、ICT等を有効に活用することで、負担も軽減される。これは、教職員間だけでなく、児童・生徒間の協働の学びや交流も生かされる。

**【片山委員長】**

それぞれの校区で考えて小中一貫教育を進めていくにあたり、いずれは具体のフレームが必要になると思う。今日は、前回山口先生よりお提示いただいた姫路市の様式をあらためてご覧いただいて、岸和田市であればどのようなものを考えればよいか、意見を出してほしい。

ちなみにこの姫路市の様式は、まず表面に1番としてその校区の小中一貫教育の目標が示され、次に校区の子どもの実態、それをふまえた校区でめざす子ども像が、学力と人間関係力の二本柱で整理している。取り組みについても、その二本柱で整理しつつ、小中の協働で取り組むことと、地域の協働で取り組むことに分けて整理している。そして裏面は、取り組みを進める推進体制と、6番の「小中教職員が協働するための改善策」というのはどのようなものか。

**【山口教授】**

小中の教職員がいっしょになって校区の子どもたちを育てていくという、その目的に向かって、内容や方法について、または、効率性について何をどのように改善すればよいか書かれている。

**【片山委員長】**

そして7番には年間の実施計画という内容になっている。この様式について、何か意見があれば出してほしい。

**【和泉委員】**

よくできていると思う。大事なことは、3番のめざす子ども像が、姫路の事例ではすで

に2つに分けているところ。やはりここは、姫路の例を同様に市として1つのフレームを出してもいいのではないか。ここを学校任せにしてしまうとぶれてしまうかもしれない。

**【松本副委員長】**

示すことで、逆に動きにくくなることもあり得る。

**【南委員】**

多忙という視点でいくと、整理することと焦点化することが大事だと思う。なぜ小中一貫教育を進めていくか、見通しが大切。

**【片山委員長】**

見通しというのは何か。

**【南委員】**

小中一貫教育をすると、こういうところが良い、ということをもみんなで分かって取り組んでいけたらと思う。この様式のように、やはりこの2つ（学力・人間関係力）が大切なこと。ここからあらためて考えるのは大変だと思う。

**【片山委員長】**

教育大綱は柱が8つある。この8つを示して進めるのがよいか、幅広すぎるので絞るほうがよいか。姫路はそのうちの2つが設定されている。

**【山口教授】**

学力と人間関係力の2つを柱にしているのは、結局、学校では何をめざしていけばいいのかということ。究極的には、中学校を卒業する段階で進路をしっかりと自分でつかみ取るための学力と、同時に社会性が大事ではないか、ということで、学力と人間関係力という柱だてをした。この2つの育成にむけては、全国学力・学習状況調査なども活用しながら全国の学校が実態に応じてさまざまな取り組みを行っていることと思う。フレームづくりに当たってのポイントは、構造化すること。岸和田のこの8つの基本方針も構造化し、整理することができる。例えば、基本方針の2は学力に関すること、基本方針の3は豊かな心なので人間関係力に主に関係するところだと思う。5番の地域の学校への安全安心・地域との協働というのは、その基盤となる部分。つまり学校で学力や人間関係力をつけていく土台を地域といっしょに作っていかうということだと思う。基本方針を構造化し、整理して示すことで、8本の中で特にこれとこれを取り組もうというように重点化していくことができるのではないか。

**【片山委員長】**

教育大綱に示される8つの基本方針が、全て小中一貫の目標としてふさわしいのか、またはそれがカバーできるのか。

これは、教育委員会全体の方針なので、生涯学習に関するものも含まれている。学校が得意とする分野の中から、今後、前を走っていただくモデル校区に、それぞれの学校で考えてもらうほうがよいか、あらかじめ方針を絞ってこちらで設定してしまうほうがよいか、と考えるが、モデル校区にはやはり幅広く示して、取り組みながら考えてもらうほうがいいのではないかと思う。その方が、やはりモデル校としてもやりやすいのではないか。今の時期は、例えばこの2つで行ってくださいというような確信もないし、各学校がそれぞれ料理してみないとわからない状況なので。

ただ、小中一貫の市全体の方向性については、構造化して示すことに向けて引き続き議論していく必要がある。

#### 【片山委員長】

今日はもう一つの議題として、モデル校の設置に向けてということで資料を配っている。前回お話したように、市内のトップランナーとして取組みを進めてもらうモデル校区を設置していきたい。モデル校区をお願いする校区の要件について、3点挙げてみた。

1点目は、小学校から中学校に進学する際、複数の中学校に分かれてしまわない校区。複数の中学校に進学する校区では、課題が若干多岐にわたる可能性があるので、モデルとして取り組んでいただくにあたっては、よりスムーズに取り組めるよう、1つの中学校に進学する校区がいいと考える。

2点目は、ある程度の人数規模がある校区。例えば1つの学年が複数学級で編成されている規模。小規模であれば、小規模ならではの取組みも出てくる可能性があり、一般的なモデルにならないことも考えられる。

3点目は、地域と学校が連携している校区。これについては、市内の学校はどこも地域連携というものが行われていると認識している。

この点について、何かあれば意見を出してほしい。

(委員より特に意見はなし)

#### 【片山委員長】

モデル校の選定については、こちらの方でさせていただく。先ほどお話しした要件に合致すると思われる校区の学校と協議したいと思う。そして、10月の推進会議で設置の報告ができればと思う。モデル校区でいろいろ取組みを進めていってもらえるようになると思うが、その際には円滑に進むように、教育委員会として全面的にバックアップしていきたい。このスケジュール通りに進むかどうかはわからないが、モデル校区では、今すでに取り組んでいることを整理しながら、校区の目標を考えてもらうことにしたい。

このことで、何か質問等はないか。

#### 【何森委員】

コーディネートする立場の人が必要ではないかという意見が出たり、それをふまえて、委員会から市単費の加配等も検討できるといったお話があったり、あるいは、やはり負担

になるだろうから、することが増えるのであれば何かを減らさないとなかなか難しいだろうという意見等が、昨年度の推進会議で出ていたと思うが、そういったことについて、このスケジュールの中で、何か反映されていることはあるのか。

あともう一点の質問は、「取組み可能なものから順次実施」とあるが、これは小中一貫教育基本方針に書かれている「具体的な取組み」のどれも全てが対象として順次実施していくという話なのか、それとも、校区の会議等で検討した計画の中での話なのか。

**【片山委員長】**

多忙化の部分については十分考えて取組みを進めていこうということになっている。各校の実態に応じて、今やっていることの整理や意味づけをして、多忙化には気を付けて取り組んでいこうと思っている。

また、加配を一人つけてまでやるような取組みは進めようとはしていない。そこは十分に委員会としても気を付けていきたい。

**【何森委員】**

「順次取組み可能なものから」ということについては、実施計画の中に、小中一貫教育基本方針に書かれているような「具体的な取組み」がどんどん盛り込まれる形になるのか。それとも各校区で、教育大綱をもとに作った計画を準備し実施するということであって、基本方針で具体的に示されているものが全て入るわけではないという考え方なのか、そのあたりが知りたい。

**【片山委員長】**

取組みの具体的な内容については、各校区で考えること。校区で考えたことを尊重していきたい。

**【何森委員】**

昨年度の議論をふまえて今年度の会議があると思っている。取組みを進めてみて、やはり大変なことになってくるようであれば、加配ということもあらためて検討する必要があるかなと思う。

**【松本副委員長】**

モデル校の中で、とても負担になってくる状況になれば、人的な支援は必要かもしれない。

**【何森委員】**

昨年度末までの話がリセットされたということではないと思っているので、今年度の議論も今後の議論も、これまでの議論をふまえて進めていってもらいたい。

**【片山委員長】**

参加者が変わっても、議論は続いていると考えているので、昨年度の議論を十分ふまえて進めている。

例えば、とにかく多忙になるという懸念について出させていただいている。まずは「実」をとる。やれることからやる。その校区ができること、必要だと思うことをやってほしい。そうでなければ長続きもしない。そういったことを前提にしながら、次回以降も議論を進めていきたい。

それでは、本日本日予定の議論はこれで終了とする。次回には、モデル校区をどの校区にお願いすることになったかを、おそらくご報告することになる。

**3. 今後の予定**

**【角銅委員】**

第2回の会議録について修正点があれば教えてほしい。近日中に市のホームページに掲載したい。今回の会議録については、できるだけ早くまとめて各委員に送るので、内容を確認してほしい。

**【山口教授】**

岸和田市はこれから始まるところで、試行錯誤や紆余曲折、またある意味、迷走する時期もあると思う。しかし、本当に真摯に子どもたちに力をつけるために、ある意味先取りでしんどい部分を今頑張ることによって、将来に希望の種をまくことにつながっていくのではないか。この会の前半に、北川議員からそういう話があった。聞いていて、気持ちが熱くなった。次代の教職員から小中一貫教育という枠組みがあってよかったと言ってもらえるように私も一緒に考えさせていただきたいと思う。よろしく申し上げます。

**【角銅委員】**

次回は、10月11日（火）に行います。

これで第3回の岸和田市小中一貫教育推進会議を終了いたします。本日はどうも、ありがとうございました。

